

# 夢ある21世紀を迎えるために マイクロマシンに期待する



マイクロマシンセンター  
理事長 石丸 典生

マイクロマシン技術は将来の豊かな未来の産業構造、社会生活を実現するためのキーテクノロジーとして期待されており、今や世界中の研究機関で精力的に研究開発が行われるようになってきていますが、その中でも幅広い技術分野を取り込んだ日本のマイクロマシン技術開発への取り組みは、世界中から注目されています。

平成3年度から工業技術院産業科学技術研究開発制度のもとで進められておりますマイクロマシン技術の研究開発プロジェクトは、参加各企業・団体の努力により、着実に成果を挙げながら、順調に推進され、今年度で8年目を迎えました。マイクロマシンをシステムとして実現することを目標として、進められているプロジェクト第2期も、早2年が経過し、いよいよ本格的なシステム化へのトライが実施される時期になってまいりました。これまでにバラバラの要素技術として開発されてきた技術が、システムとして統合され、実用イメージに近いマイクロマシンの姿が具体化されてくるとともに、マイクロマシンシステムを実用化するための課題も明らかになってくることと思います。

ところで、科学技術は着実に進歩し、21世紀がもうすぐそこまで近づいているにも関わらず、世間では昨今の景気の低迷、環境問題、少年犯罪の問題等暗い話題が多く、明るい未来への夢を語るような話題が乏しい状況にあります。そんな中で、マイクロマシン技術は、明るい話題として新聞、テレビ等のマスコミにも最近多く取り上げられています。産業界においても、マイクロマシン技術により新産業が創出され、再び景気が活性化されることを心待ちにしており、「一日も早く具体的なマイクロマシンの実用化を」という声が益々高くなっています。また、未来を担う子供達への教育の場でも教科書やその他の教材としてマイクロマシン技術が取り上げられるようになってきています。このように、様々な場所で、マイクロマシンは注目されるようになってきましたが、まだまだ一般の人達に広く認知されるまでには至っておりません。一部の賛助会員企業の御協力を得て制作いたしましたポータブル展示品は、当センターへの訪問者に対する説明や各種イベント等の際に展示されており、産技プロジェクトにおけるマイクロマシン技術の研究開発の成果を技術者のみならず多くの方々に理解して頂くのに、貢献しております。

新技術の実用化・発展には、できるだけ多くの人達にその技術の中身や有用性を認知していただき、そこにより多くの英知を結集することが、近道と考えております。

当センターでは、今後ともマイクロマシンの基盤技術の確立及び国際的かつ世代を越えた普及啓発に向けて、尽力してまいりたいと思います。